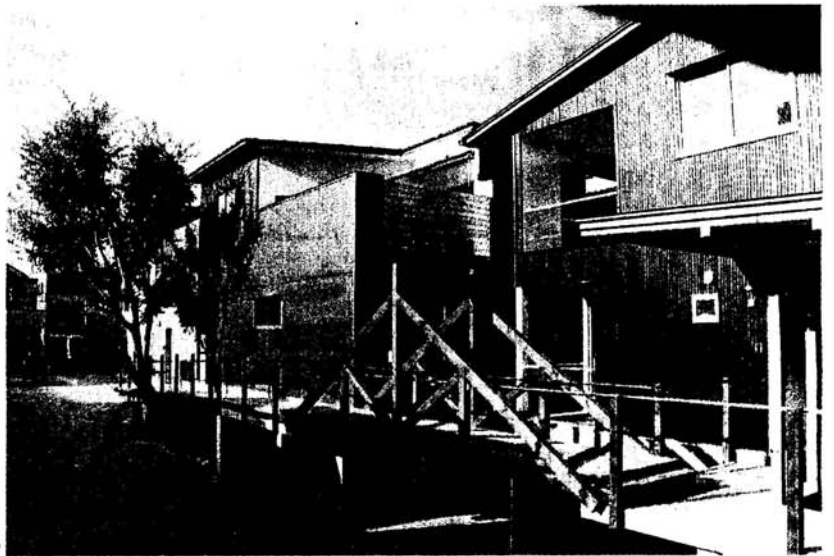


# 家持ちたい人が共同で建てるコーポラティブハウス

一戸建てでも分譲マンションでもなく、家を持ちたい人が集まり共同で建てるコーポラティブハウス。岡山県内ではまだ珍しい、この方式による集合住宅が岡山市中納言町に完成した。設計段階から再三集い、打ち合わせを重ねてきた住民は「すでにお互いの気心が知れており、安心して住み始められる」とメリットを語っている。(中浜隆宏)



## 気心知れ安心感

九百平方メートル余の敷地に、民家六戸と事務所一戸を建てた。それぞれ木造二階か同二階、地下一階建てで、広さ約六十一百四十平方メートル。二、三戸ずつの棟続きで、外壁の色は違いますが材料をそろえ統一感を持たせた。

### 岡山に完成

細長い敷地を分割せず、マンションのように一体的に使うことで通路など無駄な空間を省いた。一方、各戸の間取りは一戸建てと同様、それぞれの住民が自由に設計した。多くのマンションと同じ所有形態で建物は各住民の専有、土地は共有。一戸ごと売却、賃貸できる。

### 設計段階から打ち合わせ

敷地を所有していた石井信さん(三)が代表を務める。問い合わせはバルプラン(086-273-2231)。

不動産会社・バルプランがコーディネートとなり昨夏、住民を募集。年末に決定後、住民は月一回の割合で、外壁や駐車場など共有部分の設計、完成後の管理方法を話し合った。自身も

岡山市中納言町に完成したコーポラティブハウスの集合住宅

住む石井さんは「住民を集めるのに苦労したが、全戸を同時施工することで建設費を一、二割抑えられるのと、市街地に近い立地の良さが乗り越えた」と語る。

コーポラティブは「協同」などの意味。住む人が組合をつくり、土地を買い建設、管理する。欧州で生まれた方式で、日本では東京、大阪を中心に最近四十年で約九千戸が建設された。石井さんは「人間関係にプレッシャーを感じる人もいるだろうが、地域のつながりが薄れる中、コミュニティーづくりに有効」と説明。岡山市国富でも計画している。